

【日本経済新聞 連載記事】のご紹介

“ドキュメント 挑戦” 現代を歴史に刻む アーカイブズ 新しい芽

昨年11月26日から12月10日にかけて日本経済新聞の夕刊に編集委員松岡資明氏執筆の“ドキュメント 挑戦”『現代を歴史に刻む アーカイブズ新しい芽』と題した20回に渡る連載が掲載され、連載終了後の12月22日に、執筆者松岡氏から当編集室に記事の案内ならびにご挨拶を頂戴いたしました。「文書管理通信」では以前からアーカイブズに関するテーマを幾度か採り上げていますので、これが氏のお目に留まった所以と思われれます。そこで若干の感想を交えながらこの連載をご紹介します。

連載 タイトル一覧

連載回	タイトル	サブタイトル
1	「管理法」制定、高まる期待	脱・後進国へ目覚め
2	未来に向け保存 職員の意識変化	公文書館設置、市長走る
3	史料も人材も「残す」努力を	専門家育成へ初の大学院
4	OBの熱意が「宝の山」築く	企業スピリット 今に伝える
5	草の根運動20年 市議会を動かす	市民が育てた公文書館
6	若者や主婦、役目それぞれ	ボランティアが古文書整理
7	進むデジタル化 膨大な資料共有	「現物」は劣化激しく
8	使わぬ資料整理 省庁の壁超えて	「中間書庫」整備急ぐ
9	設計図を管理 国際交流促す	建築家の「著作」永久保存
10	段ボール箱の山 裁判の教訓残す	大気汚染から再生、歩み30年
11	公文書管理、首相の答えは・・・	議員懇談会が「緊急提言」
12	石炭資料の散逸 危機的状況救う	九州の産業や文化史、九大に蓄積
13	「学徒出陣」調査 隠れた真相に光	大学の取り組み、京大が先駆け
14	戦後資料の収集 残り時間に限り	「満鉄会」存続、先行きに懸念
15	言葉の端々から 心情を垣間見る	口述記録、すそ野
16	デジタル化、韓国追う	テレビ創成期の台本集める
17	長期的な視点で「延命」対策急ぐ	溶けるフィルム・劣化する紙
18	多種多様な知識 生かす場与える	専門職、資格認定を議論
19	検索基準を統一 データの海泳ぐ	電子化の光と影
20	知識社会の構築 日本の将来は・・・	情報資源統合、各国動く

2. 最近の動き

1) アーキビストの養成 (連載③)

⇒ 来年4月、学習院に、初のアーカイブズ専攻の大学院設置が決定した。

2) 「中間書庫」の早急な整備 (連載⑧)

⇒ 保存年限満了前に、半現用文書を省庁の壁を超えて統一的に管理する。
国は、都内の倉庫を借りて実験がスタート。神奈川県の記事も紹介。

3) アーカイブズ関係機関協議会で文書管理法制定、アーキビストの資格認定制度が討議された。(連載⑱)

⇒ アーキビストには、記録管理学、古文書学、歴史学、コンピューター知識などの幅広い知識が求められるため、その養成には時間と労力が必要である。

それゆえ資格取得者の働く場所の確保が重要課題となる。

⇒ 公文書館法(1987年制定)「付則」(注1)の撤廃要求

(注1)「付則」: 当分の間専門職を置かなくても良い

3. 「劣化対策」と「活用施策」

1) 刻々と進む資料劣化に対する対策が急がれる! (連載⑦⑰⑱)

- 「紙」の劣化 ⇒ 酸性紙の“スローファイアー”
- 「マイクロフィルム」の劣化 ⇒ TACフィルムの“ビネガーシンドローム”
- 「電子メディア」の劣化 ⇒ メディア寿命

2) 国際的な利活用を高める為にも電子文書メタデータの基準統一が必要 (連載⑲)

⇒ 急テンポで進む現用文書の電子化の中で、『電子政府推進計画』には記録保存の重要性は謳われていない。

4. 紹介された事例

取材網をフル活用した多くの事例が織り込まれ、各回とも具体性に富んでおり、アーカイブズの新しい息吹を感じさせてくれる大変興味ある内容となっています。

連載	紹介事例	対象の資料・組織(人)、内容	
2	熊本県「宇城市」	合併時の旧団体記録	新市の市長
3	山梨県甲斐市の三井家	旧宅売却時に出現した史料	甲州史料調査会(ボランティア)
4	日航アーカイブズセンター	社史、航空機資料	日本航空OB
5	小山市文書館	市史編纂	市民
6	新潟中越地震	古文書被害救出活動	ボランティア
7	アジア経済研究所	開発途上国に伝える『日本の経験』	デジタル化により世界へ発信
8	中間書庫	半現用文書	米国立公文書記録管理局、神奈川県
9	建築アーカイブス	設計図、ポピュラーミュージック コレクション	日本建築家協会(JIA) 金沢工業大学(KIT)
10	(財)公害地域再生センター	大気汚染裁判記録	大阪西淀川「あおぞら財団」
12	石炭資料研究センター	労働組合関係資料	九州大学「記録資料館」
13	大学文書館	学徒出陣の資料	京都大学
14	満鉄会	年金受給に必要な社員名簿	南満州鉄道(満鉄)元社員
16	脚本アーカイブズ	テレビの台本、クラシック譜面	(社)日本放送作家協会
17	(財)市川府房枝記念会	政権運動に関する資料、	建屋老朽化、スローファイア、 ビネガーシンドローム
20	諸外国の状況	韓国、中国、EU、英国、米国	

「アーカイブズ」は私たちの身の周りにも数多く存在する。

そこでは、ボランティア、専門家、首長、総理大臣まで様々な立場の人々が、草の根運動から国家施策までとその活動も幅広い関わりをみせている。各々の立場、領域で最大限の努力を続けている姿が、手にとるようにわかる迫力あるレポートです。

5. まとめ

「アーカイブスは役立ってナンボの世界」

これは、2003年に開所した「日航アーカイブズセンター」の構築と運営に奮闘された伊藤氏が語られた言葉で、連載のなかでも特に印象深かったものです。

ともすると「アーカイブズ」と聞き “古いモノの保存” だけを思い浮かべがちですが、『そうではないぞ、**公開され利用**されることが大切だ！』との強い意思を感じます。

「アーカイブスは現在と未来のために！」

「国際資料研究所」の小川千代子氏は、「**今日の文書は、明日の古文書**」と言い、記録を系統的に整理して残そうとする土壌づくりが大切である。と述べています。(注1) 事例で紹介された熊本県「宇城市」の阿曾田市長の「**未来のために過去の資料をすべての時代ごとに整理しておくことが、新市になっておこなうべきこと**」との発言は、自治体で公務に携わる立場から、まさにこのことを言い得ていると思います。

(注1) 当HP「書籍情報」で紹介の『デジタル情報クライシス』に掲載の対談

「松岡氏の伝えたかった事は・・・」

この連載で松岡編集委員が伝えたかったものは何でしょうか？

- 地域と一体となった資料保存活動、文書館が果たすべき役割の重要性。
- 反面、立ち遅れている国および自治体の体制づくり
- 危うい保存状況、長期的視点に立っての保全対策
- グローバルな利用体制、それを支える電子化における属性情報の仕様統一

・ ・ 等々と思われませんが、なかでも次のことを伝えたかったのではないのでしょうか？

☆ 情報公開制度がアーカイブズの新しい芽を産むきっかけとなったように、活動を支えるための**制度の必要性とその気運の盛り上がり**

☆ その制度を支えるための、古文書学だけでなく**幅広い知識を有した専門家の必要性** と **急がれる養成**

そこで最後に、日本におけるアーカイブズ研究の草分け、安沢秀一教授の言葉を借りて “まとめ” とさせていただきます。

「アーカイブズは古文書学とは違う。現用文書から古文書まで一貫してできる人はどれほどいるのか」・・・

